

9月9日 市総合防災センターで消防フェア

体験して防災意識を高めよう

各種体験や救急講演会などを通じて消防や防災について理解を深める「消防フェア」が開かれ、家族連れなど400人が訪れました。放水体験や心肺蘇生法体験、消防車などの



消火にチャレンジ!

特殊車両の乗車体験などのほか、県防災ヘリ「ひめかみ」の救助訓練なども実施。参加者は多彩な催しを通して防災意識を高めました。

9月19日 やまゆりの里で長寿を祝う

上組町の浅沼甲さん100歳

100歳を祝う会は同所で開かれ、家族や職員らが祝福。小時光行消防長が花束と記念品を手渡すと、浅沼さんは「ありがとうございます」と感謝しました。浅沼さんは青笹町出身。20歳で結婚しましたが戦争で夫を亡くし、女手一つで3人の子どもを育て上げました。現在はやまゆりの里で穏やかに過ごしています。



元気に感謝の言葉を述べる浅沼さん

20歳で結婚しましたが戦争で夫を亡くし、女手一つで3人の子どもを育て上げました。現在はやまゆりの里で穏やかに過ごしています。

8月26・27日 遠野ホップ収穫祭2017

ホップの里でカンパニー!



遠野ホップ収穫祭(TKプロジェクト実行委員会主催)は、蔵の道ひろばを会場に開催されました。会場には、延べ6,000人のビールファンが来場。収穫祭では、ステージイベントやホップ畑見学ツアーのほか、生ビールや遠野の旬の食材を使った料理の販売などが行われ、会場は大いに盛り上がりました。遠野産ホップを使用した「一番搾り」とれたてホップ生ビール」は、10月24日から全国販売される予定です。

- 1_収穫を祝う乾杯が何度も繰り返され、大盛り上がりの会場
- 2_会場内では、ビールの立ち売りも実施
- 3_収穫祭で麒麟ビール㈱の吉崎成洋醸造担当部長にホップパトンを手渡す佐々木悦男遠野ホップ生産組合長
- 4_今年のとれたてホップ生ビールのデザイン

9月10日 六神石神社で郷土芸能共演会

菊池市「御松囃子御能」が初来遠

友好都市との文化交流会「絆」(同実行委員会主催)は六神石神社で郷土芸能共演会を開き、友好都市・熊本県菊池市の国指定重要無形民俗文化財「御松囃子御能」を招待しました。この能は650年の歴史を持つ伝統芸能。菊池市から駆け付けた13人が境内の神楽殿で荘厳な舞を披露し、観客の目を楽ませました。



荘厳な舞が披露されました

この能は650年の歴史を持つ伝統芸能。菊池市から駆け付けた13人が境内の神楽殿で荘厳な舞を披露し、観客の目を楽ませました。

9月10日 市防災訓練を実施

災害に備え避難行動を確認

昨年の台風10号の教訓を生かし、今回は避難行動を重点的に訓練しました。避難準備情報・高齢者避難、避難勧告の順に、避難に関する情報を発令。市民は、8月に全戸配布されたハザードマップなどに記載されている指定緊急避難場所へ避難。一部の行政区では、消火訓練や心肺蘇生法訓練なども実施しました。



心肺蘇生法訓練にあたる参加者

昨年の台風10号の教訓を生かし、今回は避難行動を重点的に訓練しました。避難準備情報・高齢者避難、避難勧告の順に、避難に関する情報を発令。市民は、8月に全戸配布されたハザードマップなどに記載されている指定緊急避難場所へ避難。一部の行政区では、消火訓練や心肺蘇生法訓練なども実施しました。

8月27日 小友町の巖龍神社で遠野市少年相撲教室

元小結栃乃花が熱血指導

遠野市少年相撲教室(同主催)は巖龍神社境内にある土俵で開かれ、本県出身の二十山親方(元小結栃乃花)が熱血指導しました。市内外の小中学生20人が参加。豆力士は親方から四股やすり足などの基本動作を教わり、実際に対戦しました。大相撲ながらの攻防に、観客席からは盛んに声援が送られました。



二十山親方(中央)の指導を受ける豆力士

遠野市少年相撲教室(同主催)は巖龍神社境内にある土俵で開かれ、本県出身の二十山親方(元小結栃乃花)が熱血指導しました。市内外の小中学生20人が参加。豆力士は親方から四股やすり足などの基本動作を教わり、実際に対戦しました。大相撲ながらの攻防に、観客席からは盛んに声援が送られました。

8月29日 第19回「わたしの主張遠野地区大会」

中学生が力強く主張

みやもりホールを会場に開催され、市内全3中学校から9人が出場。最優秀賞には「写真の中の弟」と題して発表した佐々木聖佳さん(遠野東中3)が選ばれました。佐々木さんは、未熟児として生まれた弟や友人の祖父の死を通して命の大切さを主張。「人生を無駄にしてはいけない」と力強く主張しました。



身振りを交えて発表する佐々木さん

みやもりホールを会場に開催され、市内全3中学校から9人が出場。最優秀賞には「写真の中の弟」と題して発表した佐々木聖佳さん(遠野東中3)が選ばれました。佐々木さんは、未熟児として生まれた弟や友人の祖父の死を通して命の大切さを主張。「人生を無駄にしてはいけない」と力強く主張しました。

8月25~28日 武蔵野市家族ふれあい自然体験in遠野

遠野の自然を満喫

友好都市・東京都武蔵野市から10家族26人が、3泊4日の日程で遠野を訪れました。参加者は、遠野ふるさと村で魚のつかみ取りや餅つきを体験。遠野馬の里では乗馬に挑戦し、遠野の自然や文化とふれあいました。農村民泊では、田舎の暮らしを通して受入家族と交流。参加者は、遠野の夏を満喫しました。



民泊受入家族の皆さんと記念撮影

友好都市・東京都武蔵野市から10家族26人が、3泊4日の日程で遠野を訪れました。参加者は、遠野ふるさと村で魚のつかみ取りや餅つきを体験。遠野馬の里では乗馬に挑戦し、遠野の自然や文化とふれあいました。農村民泊では、田舎の暮らしを通して受入家族と交流。参加者は、遠野の夏を満喫しました。

8月26日 弦楽四重奏グループが記念コンサート

美しい音色が本庁舎に響く

(一財)遠野市教育文化振興財団の合併5周年と本庁舎の完成を祝うコンサートは、市役所本庁舎多目的市民ホールで開催されました。ヴァイオリンの辻井淳氏を中心に活動する「カモネット」が出演し、クラシックなど7曲を演奏。市民ら130人は、新庁舎のホールに響き渡る美しい音色を堪能しました。



美しい音色が響き渡りました

(一財)遠野市教育文化振興財団の合併5周年と本庁舎の完成を祝うコンサートは、市役所本庁舎多目的市民ホールで開催されました。ヴァイオリンの辻井淳氏を中心に活動する「カモネット」が出演し、クラシックなど7曲を演奏。市民ら130人は、新庁舎のホールに響き渡る美しい音色を堪能しました。

8月27日 第35回日本のふるさと遠野じんぎすかんマラソン

今年はハーフの部が復活!

市内外から過去最多の2,264人のランナーがエントリーし、ゴール目指して力走しました。今年はハーフマラソンの部が4年ぶりに復活し、3・5・10kmの部と合わせて計16部門を実施。コースの途中に設置されたエイドステーションでは明がらすや遠野のリンゴジュースなどが提供され、ランナーは遠野の味と沿道からの声援を力に遠野

路を駆け抜けました。ゴールしたランナーにはジンギスカンとホップ入りのソーセージが振る舞われ、参加者は遠野名物に舌鼓を打ちました。

じんぎすかんサイコ~!!



- 1_勢よく駆け出すランナー
- 2_給水所では、高校生がランナーヘッドリンクを提供。多くのボランティアが運営に関わりました